

第 15 号

2015 年 12 月 19 日
(平成 27 年 12 月 19 日)

ソムリエの風

特定非営利活動法人
奈良まほろばソムリエの会会報紙

発行 特定非営利活動法人
奈良まほろばソムリエの会
広報グループ
〒630-8333 奈良市中新屋町
23 番地 中江ビル 302 号室
あすなろ行政書士事務所内

Nara 観光コンシェルジュアワード、最終選考は 1 月 11 日！

当日は、平田進也さんの講演も

今年度は、奈良検定が始まって 10 周年。これを記念して検定の主催者である奈良商工会議所は、観光ガイド名人を認定する「Nara 観光コンシェルジュアワード」を創設。日本語・英語それぞれの分野で若干名が認定されます。



選考に備え研修会を実施 (9/22)

当会からも日本語の部に多数が応募されました。1 月 11 日(月・祝)の最終選考日には、カリスマ添乗員・平田進也さんの講演も開かれます。皆さん、ぜひご注目を！

旭堂南青さんが検定 2 級に挑戦！

第 10 回の奈良検定には、講師の旭堂南青きょくどうなんせいさんが奈良通 2 級に初挑戦。

奈良テレビ放送「ゆうドキッ！」の企画で、受験当日まで、カメラは追っかけ続けます(放送は随時)。



合格の秘訣を伝授 (11/13 放送)

ぜひ、結果をお楽しみに。

西日本同友会のツアーをガイド



宇陀・桜井コース (10/17)

10 月 16 日(金)と 17 日(土)西日本経済同友会大会が奈良で開かれ、両日のエクスカッション(バスツアー)を当会ガイドグループのメンバーがガイドしました。

「楽しかった」「また奈良に行きたくなった」と大好評でした。

講演に、会員が引っ張りだこ



クラブツーリズム奈良 (10/25)

今年は多くの講演依頼をいただいた年でした。

奇数月開催の奈良まほろば館(東京・日本橋三越前)、毎年秋のクラブツーリズム奈良旅行センターでの奈良検定講座、佐保短大での後期授業に加え、今秋から奇

数月に啓林堂書店奈良店、平成 28 年からはクラブツーリズム奈良で毎月 1 回の「まほろばソムリエのヤマトロジー講座」がスタートします。

「インプットよりアウトプットが大切」。たくさんの方に、手を挙げていただきたいと思います。



啓林堂書店奈良店 (9/28)

来年は、当会創設 5 周年です！

いよいよ来年は「友の会」ができて 5 周年、NPO 化してから 3 周年の年を迎えます。

現在、記念講演会の開催や記念誌の制作などを検討しており、近々、公表させていただきます。

その節は、皆さんのご協力・ご参加をお願いいたします。



佐保短大での授業 (9/29)

(専務理事 鉄田 憲男)

会員紹介



はじめまして、今年ソムリエに合格しました、菊谷まどかと申します。

ソムリエは二回挑戦してなんとか合格しました。ソムリエを目指したきっかけは、2010年の平城遷都1300年祭の時に奈良を訪れ、奈良の魅力にはまったことです。

修学旅行以来でしたが、大人になってから改めて訪れた奈良は、私にとって夢の国でした。例えて

いうならば、子供が遊園地でワクワクする気持ちと同じようなものでした。もともと歴史好きの父の元で育ち幼い頃から歴史によく触れており、大学でも日本古代史を学んでいたもので、古代の遺物が所かしこにある奈良にはまる下地は十分できあがっていたかとは思いますが。

試験勉強で苦労したことは、東京在住のため現地での学習がほぼ出来ないということでした。行けて年に4回、しかもお気に入りの場所ばかりめぐってしまい、なかなか新規に挑戦できませんでした。お恥ずかしい話ですが、山辺の道ですら今年に入るまで辿ったことはありませんでした。それくらい、現地学習は少ない足

りないソムリエです。(申し訳ございません)

この状況を変えることは難しかったので、出来るだけ地図やGoogleマップを利用し現地を意識して勉強をしました。情報収集のために日本橋の『奈良まほろば館』にも仕事の合間によく行ったものです。現地に行くことが出来ない分、東京に居ながらより敏感に奈良についての情報収集を心掛けました。

ソムリエを取得したこれからは、ソムリエの会での活動に積極的に参加し、より知識を深めて更に奈良を好きになっていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

(菊谷 まどか)

保存継承グループ ～文化財調査印象記～

平成27年度の保存継承グループの活動として、奈良県内の市町村指定文化財のうち有形文化財・無形文化財・無形民俗文化財・重伝建を除く(史跡・名称・天然記念物・有形民俗文化財)計118件を対象としました。

7月から始まった文化財調査は、10月には桜井市(史跡3件・天然記念物6件のうち残りの天然記念物5件)と宇陀市の史跡3件を調査対象としました。

桜井市の談山神社は、地元桜井市在住の当会所属の雑賀さんの計らいで、談山神社禰宜の佐古さんをご紹介頂き談所の森(御破裂山頂上)のアカガシ林まで、ご案内を頂きました。急な山道を佐古さんは草履でスタスタと登って

行き、我々は息が上がり後をついていくのがやっと、自身の体力の無さを感じました。

その後、神社の反対側にあるエドヒガンザクラ(薄墨桜)を調査し、次に初瀬北白木地区に行きました。奈良のマチュピチュと言われるくらい奥深い山間の地でしたが、遠望が素晴らしく感動の一言でした。理事の鈴木さんからはよくぞこの場所を探し当てたとお褒めの言葉を頂きました。調査は北白木地区にある高オカミ神社の社叢と安楽寺のエドヒガンザクラでした。

興喜天満神社お旅所の紅梅は、長谷寺の下の旅館や茶店が並ぶ参道にあり、地元の方に聞いてようやく場所がわかるくらいでし

た。老木ながら凛として立っており、感銘を受けました。



興喜天満神社お旅所の紅梅

午後は、宇陀市の室生向湊の薬師仏・磨崖仏と下笠間にある阿弥陀磨崖仏の3件は道端にひっそりとありましたが、綺麗に掃除され花も飾られ、この地の人々の熱い信仰心を強く感じ、今回の調査を終了しました。天候にも恵まれ充実した一日を過ごすことができました。(保存継承G・橋詰 輝己)

シリーズ「會津 八一」

◎ 法華寺「本尊十一面観音」

ふぢはらの おほきさきさを う
つしみに あひみるごとく あか
きくちびる

藤原の太后(光明皇后)を、現世の生きた御身としてまのあたり見奉るやうな、その紅きくちびるのあやしき生々しさよ(吉野秀雄『鹿鳴集歌解』)。

十一面観音像には光明皇后の姿を写したとの伝説があるが、平安初期の作なので時代が合わない。しかし、かつては天平盛期の作と信じられており、八一は《甘美なる伝説に陶醉して、若き日の作者が詠じたるものなり。》と自註している。本堂に流れる解説音声では、最初の部分でこの歌が紹

介されている。

昭和 40 年 11 月 3 日、入江泰吉・光枝夫妻により建立された。本体は高さ 149cm の庵治石・台石は生駒石で、刻は石田忠一、鐘樓堂の北に建つ。

◎ 海龍王寺「西金堂」

しぐれのあめ いたくなふりそ
こんだうの はしらのまそほ か
べにながれむ

しぐれの雨よ、あまりひどく降ってくれるな。金堂の柱の赤い塗料がとけて古い白壁ににじみ出てしまふから。

現在の境内は整備されているが、この歌が詠まれた大正時代は荒廃していた。八一は自分の歌には頹廢的なものと復元的なもの

があると述べており(「懷古の態度」)、この歌は前者の調子が強いものであろう。一方、法華寺「ふぢはらの」は後者の調子が強い。

昭和 45 年、東京の匿名女性により秋篠寺「あきしのの」・般若寺「ならざかの」の歌碑と同時期に建立された。高さ 145cm の生駒石で、刻は大石恒義、歌に詠まれた西金堂の南にひっそりと佇む。

(池内 力)



(法華寺)



(海龍王寺)

シリーズ「古墳を楽しむ」

古き良き風情を残し、今も多くの人を惹きつける山辺の道。風光明媚な景色に雄大な姿を見せる崇神天皇陵や景行天皇陵、箸墓古墳などが人気を集めるなか、一步古道を外れると古墳マニアも恐れる古墳が存在する。



立子塚古墳石室入口

天理市と桜井市との境にある「立子塚古墳」は 7 世紀前半の径約 20m の円墳と見られ、1913 年の調査報告書が残るのみであり

一般には知られていない。場所は景行天皇陵の後円部から南東へ約 250m の地点。鬱蒼とした雑木林の中を倒木や雑草に阻まれながら探すこと約 1 時間。やっとの思いで古墳を発見できたものの、石室入口のあまりの狭さに愕然とする。無理すればどうにか入れるが、出られなくなる怖さが容易に想像できる。

入口を懐中電灯で照らしてみるとかなり土砂が流れ込んで埋まり、途中から急激に落ち込んでいく様子。脱出用に近く竹にロープを括りつけてうつ伏せになり足からソロソロと降りてみると意外に天井が高く 2m は軽く超えるようだ。玄室石材も想像以上に大きく立派な造りに感動する。この瞬間が病みつきにさせるのだと思い

ます。しかし喜んでいながらも束の間、この後の脱出がかなり大変でした。もがくようにロープを使っても自力では這い上がれず、最後は外からズルズルと引っ張り上げてもらい必死の思いで現世へ。



立子塚古墳石室内

なかなか冒険心をくすぐられる古墳ですが、絶対に単独での入室は危険です。勇気のあるかたは自己責任で。

(道崎 美幸)

冬景色・年末／正月行事

東大寺



東大寺は治承 4（1180）年、平重衡の南都焼き討ちで伽藍の大半を焼失した。その後、復興に乗り出したが、今回の調査で奈良時代の創建時より一回り拡張して再建されたことが分かった東大寺の東塔。創建時の姿で再建するのが常識の奈良の寺では珍しいとか。

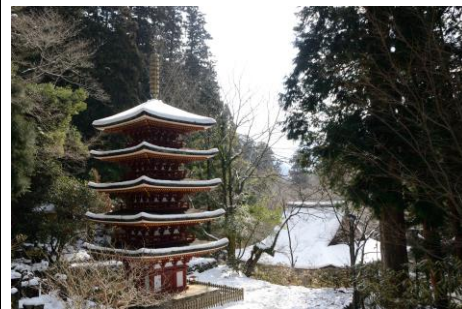
康安 2（1362）年に落雷で再び焼失。長い時間を経て現れた巨大な塔の遺構。この写真を撮ったときは未だ静かに土の下に眠っていました。

仏隆寺



嘉祥 3（850）年、空海の高弟堅恵によって創建、本尊は、十一面観音立像で聖徳太子の作と伝えられます。大和茶の発祥の地でもあり、空海が唐から持ち帰ったとされる茶臼も残っています。197 段の石段は県下三銘段のひとつであり、境内に立つモチヅキザクラの巨樹は県指定の天然記念物です。また、秋には彼岸花の寺としても有名です。

室生寺五重塔



奈良時代末、東宮（後の桓武天皇）の病気平癒を願った興福寺の僧賢憬（けんけい）が創建。一説には、役小角が創建し空海が再興したとも伝えられています。最も可憐な木塔として知られる国宝の五重塔は屋外のものでは国内最小。石楠花の寺としても有名です。空海の開いた女人禁制の高野山に対して、女性の参詣を認めたため女人高野と呼ばれています。

柏森・稲渚の綱掛神事

飛鳥川の川下や路を通して集落に入ってくる悪疫や禍をそこで守るための祈願行事です。無病息災・子孫繁栄・五穀豊穡を

祈って、川を横断してしめ縄を掛け替えます。柏森では 1 月 11 日 15 時から仏式で雌綱が、稲渚では同じく 11 日 14 時から神式で雄綱が張られます。



<編集後記>

早いもので、来年で NPO 法人になって 3 年となります。会報紙も今回で 15 号になりました。会員の皆さまに楽しんでいただけるように頑張っていきますので、引き続きよろしくお願いします。

編集に当たった広報グループメンバーは以下のとおりです。（あいうえお順）

秋山・上谷・窪田・小林(誠)・雑賀・沢田・竹内・豊田(敏)・永井・中村・橋口・廣岡・二上・松森・吉川・米山



特定非営利活動法人 奈良まほろばソムリエの会

事務所所在地：〒630-8333 奈良市中新屋町 23 番地 中江ビル 302 号室

あすなろ行政書士事務所内

ホームページ：<http://stomo.jp/>

メールアドレス：info@stomo.jp

つれづれ日記（ブログ）：<http://nara-stomo.seesaa.net/>



HP の QR コード